

「接続料の算定等に関する研究会（第33回）」 ヒアリング資料

NTT
docomo

2020年 6月17日

I 将来原価方式における予測値の算定方法

II 4G・5G一体接続料の適正性

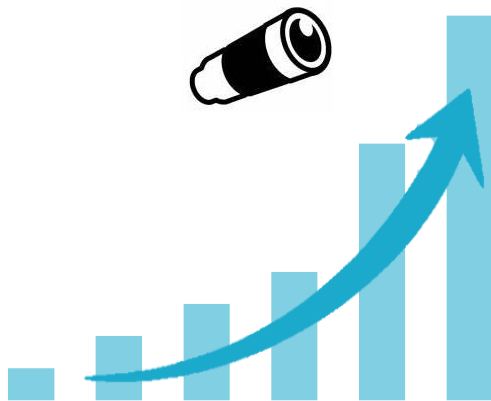
III 原価の適正性向上（精緻化）

予測値の基本的な考え方

- 予測値について、事業者の判断に委ねることが適当とされた（第三次報告書）中、当社においては、**可能な限り予測と実績の乖離が小さくなるよう推計に努めた**ところ
- 予測方法として、「見込みを用いるもの」と「過去トレンド」の考え方を採用

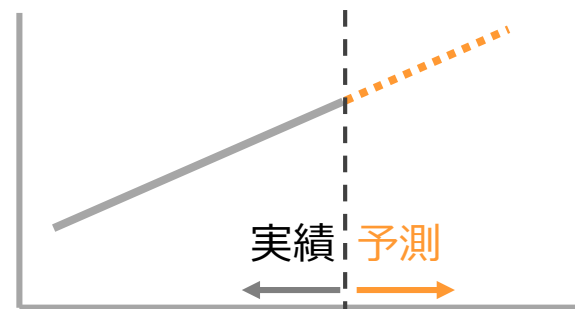
見込みを用いるもの

- ✓ 社内的な**見込みが存在し、過去トレンドによる予測が困難なものに採用**
- ✓ 見込みをそのまま予測値としている



過去トレンド

- ✓ 社内的な**見込みがないものに採用し、直近実績をより反映する一般的な統計手法を利用して予測**
- ✓ 上記予測方法は、**過年度の実績を用いて乖離が小さくなることを検証済み**



設備管理運営費の予測結果

構成員限り

正味固定資産の予測結果

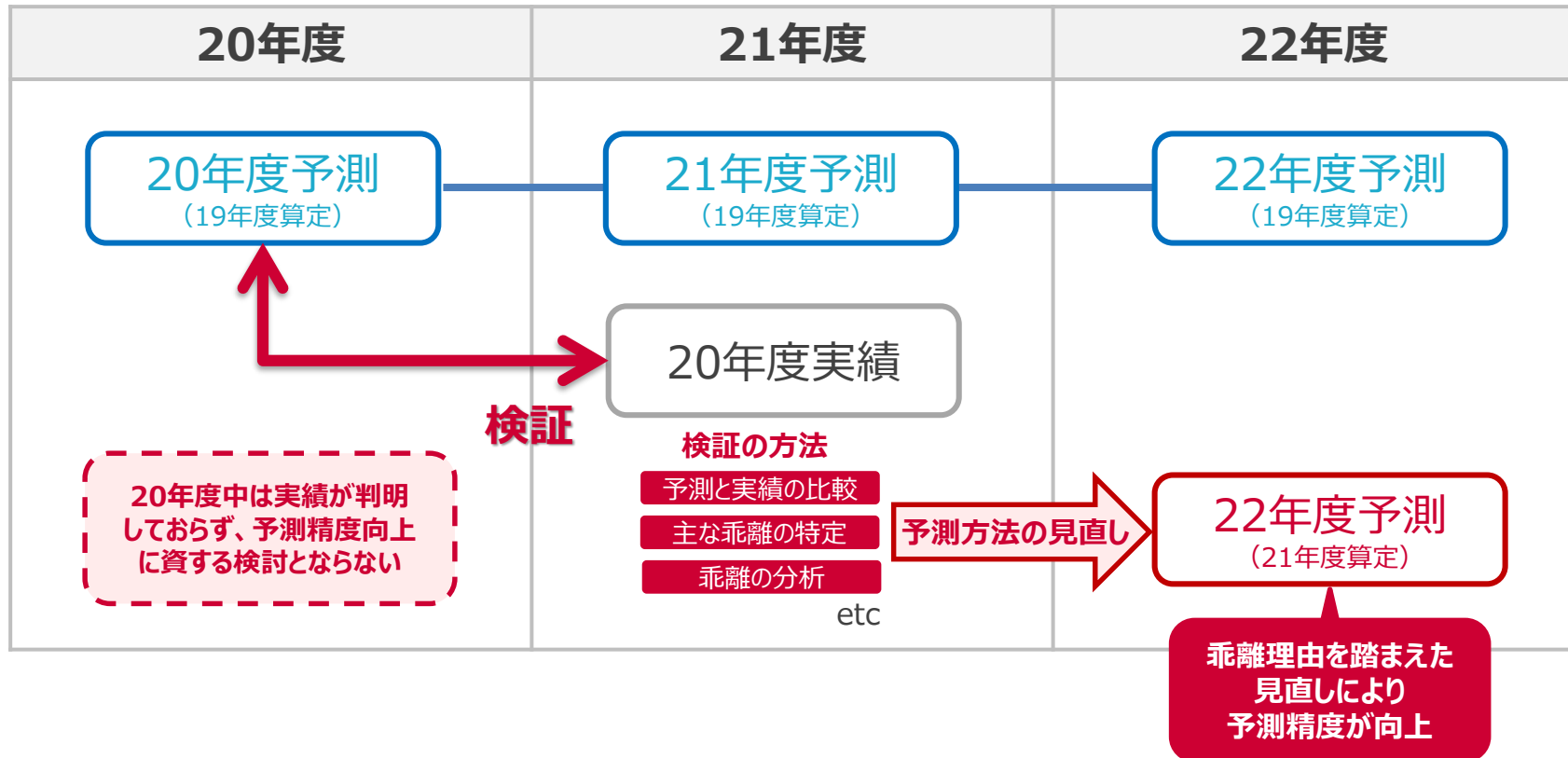
構成員限り

需要の予測結果

構成員限り

将来予測の適正性の検証について

- 予測方法の適正性は、実績との比較により検証が可能になるものとする
- そのため適正性の検証は、20年度の**実績が判明する21年度の実施**が適当であり、**当社において乖離理由を検証し、必要に応じ予測方法の見直し**に取り組む



I 将来原価方式における予測値の算定方法

II 4G・5G一体接続料の適正性

III 原価の適正性向上（精緻化）

4G・5G一体接続料について

- 導入当初においては5GはNSA方式*であり、4Gと5G区別なく利用される
- NSA方式においては基地局等の共用設備が大宗を占め、5G単体の投資は限定的。4Gと5Gを一体的に算定した場合の接続料影響は大きくないと想定される
- 4G単体の接続料を設定することで、5Gへの移行が進まなくなる
- 5G導入当初や普及期における接続料水準が大幅に変動し、後年において4G接続料が上昇に転じる懸念がある（MVNOによる「良いとこ取り」が生じる）



4Gと5Gは、引き続き一体による算定とすることが適当

*NSA（Non-Stand Alone）方式：LTEで接続性を確保しながら、5G基地局エリアでは5Gの特徴を活かしたサービス提供を行うネットワーク構成

4G・5G単独接続料の推計結果

構成員限り

I 将来原価方式における予測値の算定方法

II 4G・5G一体接続料の適正性

III 原価の適正性向上（精緻化）

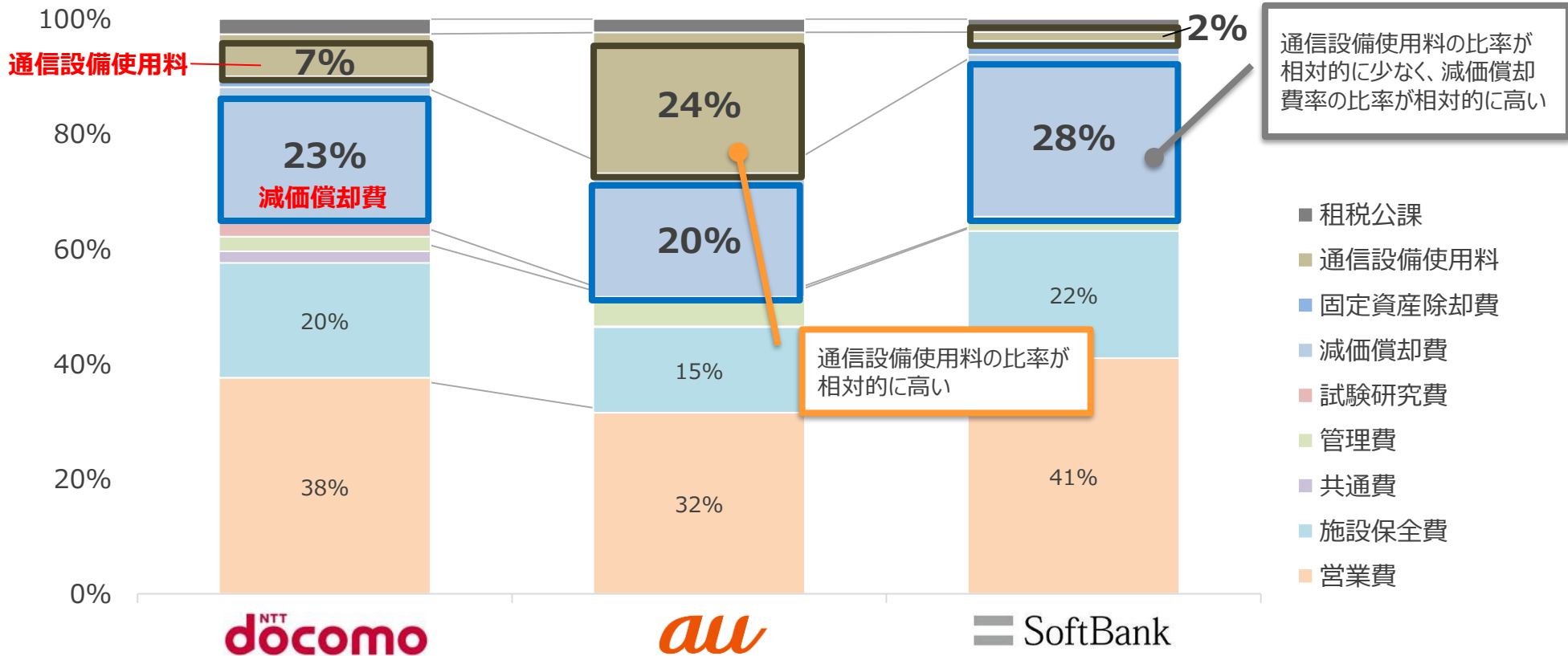
ステップごとの算定方法

構成員限り

算定方法における統一ルール

- MNO3社で事業戦略や業務運営方針が異なるように、資産や費用の構成も異なる
- 仮に、費用控除等に統一ルールを導入した場合、各社の戦略・方針に基づくコストが接続料原価に適切に反映されず、コスト回収漏れ等の問題が生じる恐れがあるため、**統一ルールを導入する必要性や目的、範囲・項目等について慎重な議論が必要**

MNO3社の接続会計における費用構成比 (2018年度データ伝送役務)



APPENDIX

構成員限り